

環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）工事説明会

〔議事要旨〕

1. 開催概要

日 時： 令和6年5月24日（金）、25日（土） 午後13時30分～16時30分

場 所： 大成・鹿島・大林・京急建設共同企業体
インフォメーションセンター（中野区大和町2－7）

日 時： 令和6年5月31日（金）、6月1日（土） 午後13時30分～16時30分

場 所： 大成・鹿島・大林・京急建設共同企業体
中間事務所1F インフォメーションルーム（練馬区豊玉中3－9）

来場者： 22名

2. 主なご質問・ご意見と都の回答（要旨）

<発進立坑>

Q1. 当初想定と違う土の出現により今回のビット交換が必要となったとのことだが、当初はどのように想定していたのか。

A1. 当初は1km間隔での地質調査データをもとに設計しています。また、隣接区間の神田川・環状七号線Ⅱ期シールド工事通過区間の土質と比較しても大きな違いはないことからビット交換せずに施工可能と判断しました。なお、掘進開始前には約100m間隔で追加の地質調査をしており、概ね当初の調査結果と相違はありませんでした。

Q2. 中間立坑に土砂搬出機能を移設して掘進工程の短縮を図るとのことだが、また想定外の土の出現で工程が遅延する可能性はあるのではないか。

A2. 工程の遅延がまったくないとは言いきれません。仮に今回と同様に掘進速度が遅くなり、カッタービットの摩耗が進行しても、再度ビット交換することなく到達立坑まで施工できるようにビットの形状や大きさを決めています。

Q3. 妙正寺川から取水した洪水は分水路のように神田川の方に流れていくのか。

A3. 調節池はあくまでも洪水を貯める施設であり、流す施設ではありません。

Q4. 掘進している場所はどのような地層なのか。どのような層が悪影響を及ぼしたのか。

A4. シルト等の粘性土層、砂質土層、れき層の互層になっています。粘性土層の粘着力が想定より大きかったため、面板への付着及びビット間への詰まりが進んだと考えられます。

Q 5. トンネルを見学できるか。

A 5. 本現場では定期的に見学会を実施しています。見学会は「環状七号線地下広域調節池（石神井川区間）工事」の HP にて受け付けておりますので、詳細は HP をご確認ください。

URL : <http://kanzyou7.com/>

Q 6. 工事ヤードを縮小できないのか。仮囲いのせいで道路が狭く通行が危険である。

A 6. 土砂搬出機能が豊玉立坑に移行した後も、引き続き、セグメント等の資器材の搬出入を発進立坑から行うため、工事完了まではトレーラー等の出入りがあり、工事ヤードの縮小は困難です。引き続き誘導員を配置し安全の確保に努めます。なお、トンネル工事完了後も、取水施設整備や管理棟整備などの工事を行う予定です。現在設計を進めている段階ですので、工事ヤードを縮小の可否についてはお答えできません。いただいたご意見も踏まえて、工事ヤードの範囲等を検討していきます。

Q 7. 土砂搬出機能が豊玉立坑に移行すると、静かになるのか。

A 7. 昼夜間で行っている泥水処理、土砂搬出等に伴う音はなくなりますが、セグメント等資器材の搬出入は継続して行います。また、トンネル工事後も、取水施設整備や管理棟整備等の工事を継続して行う予定です。

Q 8. 工事も長期化し、周辺の住民は迷惑している。そもそも事業には反対である。本当に必要な施設なのか。妙正寺川から取水している状況をみたこともなくこの辺りで川が溢れるとは思えない。

A 8. 周辺の皆様には、長期間に及ぶ工事でご迷惑をおかけしており申し訳ありません。近年、この付近で大きく水位が上昇したり、川が溢れたりということを経験されていないかもしれませんが、昨年 6 月の台風第 2 号では杉並区の善福寺川で溢水し、浸水被害が発生しました。また、令和元年東日本台風では、多摩地域を中心に複数の河川が溢水しています。

現在整備中の広域調節池は、白子川流域、石神井川流域、神田川流域の浸水被害軽減に大きな効果を発揮する施設です。最近は、雨の降り方も変わってきており、いつどこで大規模な洪水が発生するかわかりません。そうしたことに備えるためにも、本施設の整備を着実に進めていきたいと考えています。

Q 9. 右岸側のガードマンの誘導が不十分である。2 人も設置しているのに連携ができていない場面が多い。

A 9. ご不安にさせてしまい、申し訳ありません。ガードマンに対して、誘導の目的や方法等をあらためて教育するよう、受注者を指導致します。

Q10. 左岸側のガードマンの設置目的はなにか。

A10. 自転車と歩行者の衝突等を防ぐ目的で設置しています。誘導を適切に行うよう、受注者を指導致します。

Q11. 工期を延ばしてばかりではなく、短縮するよう努力すべき。

A11. 少しでも早く事業が完了できるよう安全管理も徹底しながら引き続き着実に進めていきます。

Q12. トンネル内が満管となった場合に、トンネル下流側で立坑から地上へ水が溢れてしまうことはないか。

A12. トンネルが満管となった場合には取水施設に設置するゲートを閉鎖し、それ以上の取水を行わないように管理します。

Q13. (石神井区間) 工事が終わった後、妙正寺川の仮栈橋はどうなるのか。

A13. トンネル工事の終了後には、取水施設整備や護岸工事を行う計画としています。仮栈橋は工事用車両の搬入路及び作業スペースとして利用するため、トンネル工事終了後も残置する予定です。

Q14. 工事説明会の案内で、パネルで説明することは理解していたが、個別説明をしてくれるとは理解していなかった。午後１時３０分から説明が始まると思って時間を合わせて参加した。

A14. 東京都第三建設事務所工事第二課においては、コロナ禍を契機に、質問のしやすさなどから好評のため、説明会をオープンハウス形式で行うことが増えています。今回、開催時間である午後１時３０分から午後４時３０分の間で好きな時間に来ていただければよいということがうまく伝わりませんでした。これを反省として踏まえ、今後の案内方法について改善致します。

Q15. 工事工程がわかるチラシ(週間工程)が毎週のように投函されてはいるが、このように直接話ができる説明会を開催してもらってありがたい。

A15. 今回の説明会については、工事着手時の工事説明会から大幅に工程が変わることから、地域にお住いの皆様にお知らせする必要があると判断し、説明会を実施しました。今後も必要に応じて適宜開催していく予定です。

Q16. 豊玉立坑まで到達すると、今後、発進立坑からダンプの出入りはあるのか。

A16. ビットを交換後は、豊玉立坑から土砂を搬出するための設備を約１年かけて設置します。その間は、土砂搬出を発進立坑から行うためダンプの出入りを予定しています。土砂搬出機能が豊玉立坑に移行した後はダンプの出入りはなくなりますが、セグメントを含めて資器材の搬出入は引き続き発進立坑から行うため、工事完了まではトレーラー等の出入りがあります。

Q17. 土砂はどこへ搬出しているのか。

A17. 土砂は発生土として再利用するものと、産業廃棄物として処分するもので搬出先が異なります。再利用するものについては埼玉県などに、産業廃棄物は横浜市や川崎市の受け入れ施設に搬出しています。

Q18. 当初あった公園は復旧されるのか。復旧される場合広さはどの程度か。

A18. トンネル工事完了後は、本工事で使用している敷地内に、取水施設や管理棟を整備予定です。詳細については現在検討中ですが、当初あった公園については復旧することは難しい状況です。

Q19. 取水は実施しているのか。

A19. 神田川・環状七号線地下調節池への取水は従来通り実施しています。

< 豊玉立坑（中間立坑） >

Q20. ビットはどうやって交換するのか。

A20. ビット交換はシールドマシンが地中にある状態で実施します。まず地盤の崩落や漏水を防止し安全に施工するため、ビット交換予定箇所である豊玉立坑前の地盤を凍らせる「凍結工法」を行います。その後、凍結範囲にシールド機を到着させ、掘進を停止した後に、凍結部を掘削し開口を設けて地中にてビット交換の作業を行います。

Q21. 豊玉立坑から再発進後、本当に 1.5～2 年くらいで掘り切れるのか。

A21. その予定です。

Q22. 豊玉立坑に換気施設ができるとのことだが、調節池内に下水が入ってくるので臭うのではないか。

A22. 豊玉立坑は給気施設として整備する予定ですので、排気はしません。そのため臭気等はないと考えています。

Q23. 土砂出しが始まった時に、ダンプの出入りは環七のみか。

A23. 工事車両は全て環七通りから出入りを行います。

Q24. 外環のシールド工事の事故があったが、この工事に影響は出ていないのか。

A24. 現在、工事による影響は出ておりません。外環の事故を受け、一層、安全管理を徹底して工事を進めています。地表面の沈下計測状況も HP で公表しているのでご確認ください。

URL : http://kanzyou7.com/ground_subsidence/

Q25. 昼休み（12～13 時）の時間くらいは静かにしてもらいたい。

A25. ご迷惑おかけして申し訳ありません。提示いただいた時間は原則休み時間としていますが、ご意見として承ります。

Q26. 将来もこの土地を使い続けるのか。

A26. 維持管理施設として将来も使用する予定です。

Q27. 地下にトンネルができることによって地上への影響はないのか。

A27. 施工中は地上への影響がないよう施工管理、安全管理を徹底し施工しております。

トンネルは、セグメントと呼ばれる覆工部材で覆われており、地盤が崩れることはありません。

Q28. プラント設備が日当たりを悪くして困る。この設備はずっと残るものなのか。

A28. ご迷惑をおかけしており、申し訳ありません。プラント設備はシールドマシンの稼働に必要な設備のためトンネル工事完了後には撤去します。

以上